

地域懇談会の概要

1 実施目的

次期印西市地域福祉計画及び地域福祉活動計画の策定にあたり、地域活動を推進する上での地域の現状課題を共有し、その解決方法や今後必要となる取組について考える懇談会です。

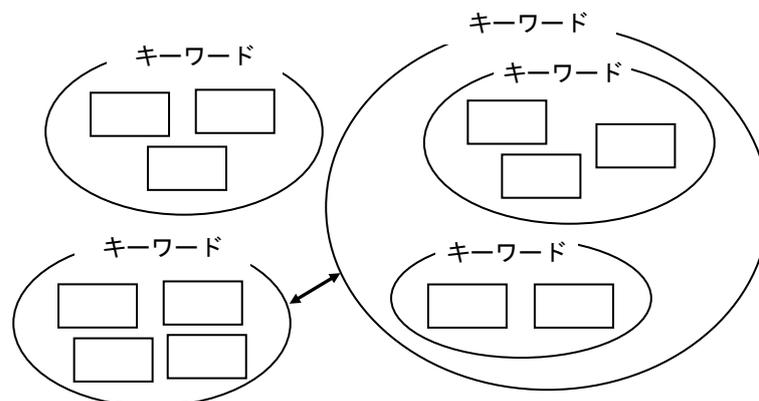
ワークショップ形式で、地域の現状や今後必要となる取り組みについての意見交換を行います。

2 ワーキングのテーマ

- ① 地域の様々な団体との連携の充実
(地域の人に活動を知ってもらうには、いろんな団体との協力・連携を増やしていくには)
- ② 地域活動への住民参加の促進
(近所とのつながりをつくっていくには、助け合いの機運を高めていくには)
- ③ 地域人材(リーダー、ボランティアなど)の育成
(活動のリーダー・ボランティアの担い手になる人を増やしていくには)

3 ワーキングの進め方

- ① テーマ毎に問題点、課題、今後必要だと思う取組などを1つずつ付箋に記入します。
どんな意見でも構わないので、思いついたことを素直に書いてください。
- ② 記入した意見を1人1つずつ順番に発表し、用紙に貼っていきます。
- ③ ディスカッションしながら、似た意見をグループ化します。
- ④ グループをあらわす言葉でまとめます。
- ⑤ グループの間に関係がある場合は、線や矢印を記入します。
- ⑥ 意見をまとめ、発表します。



4 ワーキングスケジュール

地区名	日時	会場
印旛	8月24日（水）14：00～	ふれあいセンターいんば
本埜	9月6日（火）10：00～	本埜公民館
ニュータウン中央北	9月7日（水）13：30～	フレンドリープラザ
木下	9月8日（木）13：30～	総合福祉センター
大森・永治	9月9日（金）13：30～	総合福祉センター
ニュータウン中央南	9月12日（月）13：30～	サザンプラザ
船穂・牧の原	9月21日（水）14：00～	ふれあい文化会館
小林	9月30日（金）10：00～	小林コミュニティプラザ

<テーマ>

- ① 地域の様々な団体との連携の充実
（地域の人に活動を知ってもらうには、いろんな団体との協力・連携を増やしていくには）
- ② 地域活動への住民参加の促進
（近所とのつながりをつくっていくには、助け合いの機運を高めていくには）
- ③ 地域人材（リーダー、ボランティアなど）の育成
（活動のリーダー・ボランティアの担い手になる人を増やしていくには）

5 ワーキングにおける主な意見

①地域の様々な団体との連携の充実

[主な意見]

- ・他団体の構成員や、活動内容を知らない。活動を発表する場や各団体が集まる場、情報交換をする場などもなく、協力が難しい
- ・各団体が自団体の主な目的となる活動を優先している。また、交流の必要性を感じていない部分もある
- ・災害発生時に避難指定場所に地域住民が集合できるよう、防災組織との連携は必要だが、防災組織をつくるのに、先に動いていく人がおらず、組織ができて活動まで結びつかない
- ・アンケートから、民生委員の認知度が低いとわかった
- ・各団体と社協との連携・連絡を強めたい
- ・団体連携のための活動資金援助や、市からの対応策がほしい
- ・地域活動を知らない人が多い。様々な団体の活動内容を具体的に知らせる機会づくり
- ・参加したいと思っている人はいるが、参加に至らない
- ・活動への新しい参加者が増えない
- ・どんな団体があるかわからない。活動内容・活動場所や仕組みについてよくわからないという住民が多い
- ・回覧でPRするなど、参加意識を高めたり、口コミで仲間を増やしたりしながら活動を広げる



[課題・今後の取り組み]

- ・社協や各団体が、情報交換・交流・連携するための場づくりや、行政からの支援が必要
- ・防災組織活動の活動を活発にすることが必要
- ・地域活動や、地域で活動している団体・委員についての認知度を高めるため、広報・周知の徹底が必要
- ・各団体の連携推進や団体の活動を支援する行政のサポートが求められている
- ・参加したいと思っているが実際に参加していない人に参加を促すきっかけづくりが必要。

②地域活動への住民参加の促進

[主な意見]

- ・地域活動への参加が積極的でない人、参加していない人・参加意欲のない人がある。若い世代は働いていて忙しい。
- ・町内の高齢化が進み、災害など何かあったときは、困難が予想される
- ・ボランティア活動へ若い人が参加しにくのではないか。また、ボランティア活動のやり方や内容の周知に工夫が足りないのではないか
- ・中心となって引っ張る人がいない。自分からはリーダーにならない。リーダーの育成とそれを支える組織が不十分
- ・行事があっても参加するのはいつも同じ人。参加人数の減少と固定化が起きている
- ・地域住民に活動内容が知られていない
- ・町内会に新しい住民が入会しない。新しい住民と昔からの住民でコンタクトが取れない
- ・防災訓練について、関心のある人も多いが参加者は少ない
- ・地域活動をしている人から近隣へのこまめな声かけ
- ・地域活動・ボランティア活動を始めるきっかけがない
- ・活動内容を知らせる広報活動の強化
- ・地域交流の場・イベントを多く企画し、魅力を伝え、参加してもらおう・関心を持ってもらおう
- ・地域活動が地域にとって必要なことであることを理解してもらおう
- ・登録者数の裾野を広げる。ひとりひとりの負担を減らし参加しやすくする



[課題・今後の取り組み]

- ・新しい参加者・若い世代の参加者獲得のために、活動内容について広報・周知をしていくことが必要
- ・防災について、住民の意識向上が必要
- ・ボランティアの種類や活動内容を具体的に示していく必要がある
- ・活動以外に行事や魅力的な研修を行ったり、身近なテーマを挙げたりするなど、参加率向上の取り組みが必要
- ・参加を促すために、地域の人の中でこまめに声をかけることが必要

③地域人材（リーダー・ボランティアなど）の育成

[主な意見]

- ・ ボランティアがどのようなものか、どこでしているのか、するにはどうしたらよいかわからない人が多い
- ・ 特に若い人でボランティアに興味のない人が多い。ボランティアが高齢化している
- ・ ボランティア活動に参加している人が周りにいない
- ・ 町内会や自治会への加入者が少ない
- ・ 若い人は仕事があり、退職した人は農業が忙しくボランティアに参加できない人が多い
- ・ ボランティア活動への呼びかけ・集まる機会が足りていない
- ・ 若い人を中心に自主防災会を立ち上げていたり、防災訓練への参加者が増加している
- ・ リーダーのなり手はいないが、ボランティアに参加する人はいる。また、気軽にできるボランティアへの意欲はある
- ・ ボランティア参加を増やすために活動内容を知ってもらう
- ・ 実際の声かけが不足している
- ・ 気軽に参加できる集いの場を設ける
- ・ 関心のあることから呼びかけ、ふれあう機会を持つ
- ・ 活動を通してリーダーを育てていく。強力なリーダーシップを持った人が必要
- ・ 高齢者のリーダーが多い。30～50代の働いている世代でリーダーが不在。若い世代でリーダー候補者がいない
- ・ リーダーの育成の前に、なり手となる人材を集めなければならない状況
- ・ ボランティアについて、地域の学校・自治会にPR不足



[課題・今後の取り組み]

- ・ 関心のある分野や、参加しやすい部分から声をかけ、ボランティア活動への協力を積極的に呼びかけることが必要
- ・ 防災への関心が高い現状があり、そういった面から地域の組織への参画を促すことが重要
- ・ 活動場所や内容を知ってもらうこと、興味を持ってもらえるような機会づくりが必要
- ・ ボランティア活動について、学校や自治会への広報強化が必要
- ・ ボランティアに関心を持つような呼びかけが必要。紙媒体ではなく、実際に声をかけることも重要
- ・ 若い世代や、仕事のある人でもボランティアに参加できるような日時や内容の検討が必要
- ・ リーダーのなり手について、活動を通して人材を探し、育成することが必要
- ・ リーダーが高齢化しており、特に若い世代で人材発掘が必要